

4-2

看護・介護の情報のOA化について

館内どこでも記録が出来る・見られる。

記録の一元化

OA化

特別養護老人ホーム 谷中

介護主任 鈴木 昇 台東区 谷中 2-17-20	共同研究者 共同研究者
TEL: 3824-1094	E-mail: yana-toku@tctv.ne.jp
FAX: 5686-3596	URL: 9p左寄せ

今回の発表の施設 またはサービスの 概要 10p	社会福祉事業団が運営し、地域に根ざした施設運営をめざしています。平成元年設立で、地域包括・ケアマネセンター・在宅サービスセンター・特養（50人ショート6人）の施設です。地下鉄千駄木駅から徒歩5分ですが、静かな生活環境です。
--------------------------------	---

<p>〈取り組んだ課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">● 日誌と個人記録の一元管理ができないか模索● 看護・介護記録の共通化をはかり情報の共有 看護師の記録と、ケアスタッフの記録は別用紙になっていて、個人記録も場合別冊のファイリングになっていた。● 情報入力しやすさ、キーボード入力ではないものを探しました● 情報のとりだしやすさ・データ加工がしやすい 入力データを見やすく取り出しやすいものを● ショートステイとデイを併用されている方の情報を共有する● 現在必要な事柄がシステム化できるソフトを探す。ランニングコスト含め検討 <p>個人記録をまとめるときはあちらこちらを確認が必要でした。しかし、日誌システムの導入により情報を、一元管理することが可能となり、転記作業もなくなったので、超過勤務時間の削減にもつながりました。</p> <p>〈具体的な取り組み〉</p> <ul style="list-style-type: none">● 日常観察ポイントの整理● 入力語句の整理● 超過勤務時間の調査● 日誌システム導入による業務軽減● 介護・看護スタッフの情報の共有する意味の整理● 多くの職員が使いやすく、施設経営上投資の少ないものの比較検討	<p>〈活動の成果と評価〉</p> <ul style="list-style-type: none">● 記録が一元管理されたことにより誰がいつ何をしたかが共有された。● 日誌システムの導入により日誌から個別ケースへの転記作業が無くなる。そのことにより事務業務が軽減され別の業務にかかわることができた。● 必要な情報が抽出しやすくなった。● 入力をその場で行うことによって、介護メモ（日誌作製のための）が不要になる● ご家族に利用状況情報提供としての、提供が安易になった● システム導入の費用が安価 <p>〈今後の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">● 入居者の生活上観察（チェック）すべき内容を詳細整理。生活援助の上で何を基礎観察点とすべきか● 基礎観察データを基にしたマネージメントプランの作成 <p>〈参考資料など〉</p> <p>台東区社会福祉事業団で導入した『ソフトらく 2 e 介護』の紹介は http://www.it-vy.com/seihin_raku.htm</p>
---	---

【メモ欄】
